

7

古典

■学習日

/

要点チェック

- (1) 次のそれぞれの文の——線部を現代仮名づかいに直して答えなさい。
- ① いはくあり気。
□② 昨日の味方、けふの敵。
□③ いとをかし。
□④ 皆の者、づが高い。
□⑤ 荒き波のこゑ。
- (2) 次のそれぞれの文を現代語に訳したときに、□に入る最も適切な助詞をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。
- ① 心細く住みなしたるいほり□あり。
□② いとちひさくみゆる□はいとをかし。
□③ 火など□いそぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。
□④ 「夜に入りて、物のほえなし」といふ人□、いとくちをし。
- アは イの ウを エが
- (3) 次のそれぞれの文の——線部と係り結びの関係にある部分を書き抜いて答えなさい。
- ① 和歌こそなほをかしきものなれ。
□② 生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。
□③ なほ、梅の匂ひにぞ、古へのこともたちかへり恋しう思ひ出でらる。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある僧、「われは生まれてよりこのかた、腹を立てず」といひけり。ある人はこれを信ぜず。⑦「凡夫、三毒あり。腹立たぬ人はなきことなり」といへば、①「いささかも腹を立てず」といふを、なほ信ぜずして、②「まこととおぼえず。そらごととおぼゆ」といはれて、⑤「立たぬといへば、立たぬなり」とて、顔を＊あかめてしかりけり。

〈無住一円「沙石集」より〉

(注) 凡夫、三毒あり＝人はだれでも「貪欲・瞋恚(怒り)・愚痴(無知)」

の三つの欠点からは逃れられない。

あかめて＝赤らめて。

- ① ———線①「いひけり」を現代仮名づかいに直して答えなさい。

- ② ⑦⑤の会話文の中から「ある僧」のことを二つ選び、記号で答えなさい。

- ③ この話のおかしみはどこなところにありますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ある人が「凡夫、三毒あり」の意味を取り違えて、ある僧にしかられてしまったところ。

イ ある僧が、自分の言ったことに反する行為を、つついしてしまったところ。

ウ ある人が、ある僧の自慢話をそのまま信じたために、恥をかいして

まったところ。

工 ある僧が、ある人に仏の教を説こうとしたが、逆に教えさとされてしまったところ。

(4) — 線②「そらごととおぼゆ」について次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「そらごと」の対義語を本文中から書き抜いて答えなさい。

□②「そらごととおぼゆ」を、「ある僧」ということばを必ず使い、何が「そらごと」なのかを具体的に明らかにして、三十五字以内の現代語に訳して答えなさい。

(句読点を含みます)

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 寛平くわんぺいの 歌合うたあひせに、 初雁はつかりを 友則ともりのり

* 春霞はるがきかすみていにし雁がねの今ぞ鳴くなる秋霧の上に
とよめる。

* 左方にてありけるに、^①五文字ごもじを詠じたりける時、右方の人々、ことごとく笑ひけり。さて次の句に、「かすみていにし」といひけるに ^②※、^③音もおとせずなりにけれ。ものを聞きはてず、ひた騒ぎに笑ふこと、^④あるまじきこととなり。
〔十訓抄〕より

(注) 寛平＝平安時代初期の年号。八八九～八九八。

歌合＝左方・右方に分かれた歌人たちが、与えられた題(この場合は「初雁」で、これは代表的な秋の題)で歌をよみ、その優劣を競ったもの。

友則＝紀友則。「古今集」撰者の一人であった。生没年不詳。

春霞＝「春霞にまぎれてかすんで飛び去ってしまったあの雁が、今こそ鳴いている、この同じ空の秋霧の上に」の意。古今集には「題しらず」、「詠み人しらず」で載っている。

左方にてありけるに＝(友則は歌合の)左方であったのだが。音もせずなりにけれ＝声ひとつ立てなくなってしまった。

□① — 線①「五文字」を歌の中からひらがなで五字で書きぬいて答えなさい。

□② — 線②「音もせずなりにけれ」は、だれの様子について述べたものか。次から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 紀友則 イ 左方の人
ウ 右方の人 エ 世間の人

□③ ※に入る助詞を、— 線②「音もせずなりにけれ」〔けれ〕は已然形)の部分の参考にして、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ぞ イ や ウ か
エ こそ オ なむ

□④ — 線③「あるまじきことなり」を、現代語に訳して答えなさい。

